

## 会議結果の公表

附属機関等の名称	沖縄県立図書館協議会
日時	平成25年9月20日（金） 09:30～12:30
場所	沖縄県立図書館3階研修室
出席委員名	吉田肇吾会長、大城進副会長、森田孟則委員、上原明子委員、堀川輝之委員、池城かおり委員、濱崎かおり委員、今井俊二委員、呉屋美奈子委員
議題及び報告事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 館長あいさつ</li> <li>3 会長、副会長の選任</li> <li>4 館の説明</li> <li>5 館内視察</li> <li>6 議事             <ul style="list-style-type: none"> <li>報告事項                 <ul style="list-style-type: none"> <li>①平成24年度県立図書館運営実績と平成25年度の主な事業について</li> <li>②県立図書館移転計画について</li> <li>③「沖縄県立図書館評価指標による図書館評価」について</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>7 各委員からの図書館への提言</li> <li>8 閉会</li> </ol>
議事の概要	<p>(1) 報告事項に対する質疑応答を行った。</p> <p>(2) 「沖縄県立図書館評価指標」について協議を行い、後日、「協議会評価」をまとめ公表することとなった。</p> <p>(3) その他、委員からの質疑及び提言は議事録のとおり。</p>
公開・非公開の別	公開
非公開の場合の理由	-
所管課等	沖縄県立図書館
問い合わせ先	総務班 担当 慶田・松竹 電話 098-834-1218
備考	

## 平成25年度第1回沖縄県立図書館協議会 議事録

日時 : 平成25年9月20日(金) 09:30-12:30

場所 : 沖縄県立図書館3階 研修室

出席者 : 吉田肇吾会長、大城進委員(副会長)、森田孟則委員、上原明子委員、堀川輝之委員、池城かおり委員、濱崎かおり委員、今井俊二委員、呉屋美奈子委員

### <議事内容等>

まず、会長、副会長の選任において、会長に吉田肇吾委員、副会長に大城進委員が選任された。

その後、吉田会長の進行により、嘉数館長から館の概要について説明を行い、館内の視察を行った。

視察終了後、議事に入った。議事における発言要旨は以下のとおり。

(事務局から、報告①、②について説明)

(委員)

貸出冊数と有効登録者数のマトリックスが作れば面白いデータになると思う。課題解決の観点から貸出がマッチされているかどうか、こういうデータから見えてくるのではないか。最近「ビッグデータ」という言葉もある。図書館にはすごい財産が眠っているかもしれないので、うまく活用できればいいと思う。

武雄市立図書館では、ツタヤカードがないと本が借りられないシステムらしい。ツタヤカードは個人情報の塊。その人がどんな本を借りているのかが武雄市立図書館にバックデータとして入ってくるのは、大きな財産になると思う。商売とどういう風に切り分けるかという問題はあるが、面白いデータにはなる。

(事務局)

武雄市立図書館の例は、反響が大きく注目されていますが、町おこしの意味合いが強いようで、図書館の在り方としては賛否両論ある状況です。県立図書館としては参考にするのは難しいと考えています。まだ始まったばかりの試みですので、動向を見守りたいと思います。

(委員)

話題性があるって集客力はあると思うが、公立図書館としての機能がきちんと発揮されるのかわかるかを見極めないと評価は難しい。

(委員)

私が申し上げたかったのは、貸出データの蓄積の重要性についてだった。

(委員)

来館者数、貸出冊数が伸びていて頑張っている印象だが、他県との比較ではどうなっているか。

(事務局)

図書館雑誌2013年8月号に掲載されている日本図書館協会の調査速報によると、来館者数は、全国平均約40万人に対し当館は約35万人で、25位となっています。個人貸出冊数は、全国平均約41万冊に対し当館は約32万冊で、24位となっています。

(委員)

利用者や貸出冊数が増えることは、方向性としてはよいことだが、こうした数字の増加に見合った人員配置や予算措置はなされているのか。

(事務局)

移動図書館等、広域関連の事業での定数増はありましたが、利用者や貸出増に対する増員は現在のところありません。利用者や貸出冊数の増加の要因として、平成23年度にリニューアルを行ったことや平成24年度から1回に借りられる冊数を5冊から10冊に増やしたこと等があると考えています。現状はその結果が出てきた段階ですので、現時点ではこれに対するスタッフ増員等にはつながっておらず、今後考えていく必要があるということで行政内部で働きかけをしています。

(委員)

職員については、単に頭数を揃えるだけではなく、スキルアップも検討しなければならない。図書館協議会としてもそのあたりを行政への意見として出していきたいと思う。

(委員)

私もまさにそれをお願いしたい。課題解決型ライブラリアン育成モデル事業があるが、残念ながら今年度限りだ。新図書館の構想の中にも課題解決型司書の育成が課題としてあげられている。社会教育委員の会議で「知の拠点としての図書館」構想を検討する中でも、図書館が継続していくためには、ライブラリアンの質の向上が必要であるというのが一致した結論だった。今年度限りといわずに、ぜひ継続してほしい。遠回りのようだが、そこに予算をかけることが文化全体の向上につながる。

(委員)

図書館未設置町村では図書館を作りたくてもその後の管理運営の費用が厳しい。県立図書館の支援がぜひ必要だ。また遠隔地サービスの試行も嬉しい。例えば名護市立図書館は、従前から北部地域の市町村に対して協力館的な役割を果たしている。そのように地区の中核となる図書館に課題解決型ライブラリアン育成モデル事業で育成したライブラリアンを配置し、レファレンス等について指導する等ができればよいと思う。

(事務局)

人材育成については、例えば行政職員が人事異動で来て3年で異動する等専門性に絡んでいろいろな問題があります。過去に司書職で採用された職員が何人かいますが、そろそろ退職の時期であり対応が求められる時期ですが、今は専門職の採用が行われていない等の課題があります。関係部署に調整はしていますが、なかなか難しい状況です。

(委員)

新聞データベースコーナーでは予算が必要だと説明があり、レファレンスが増えてもスタッフはどうかという話もあった。予算が関わってくる話だが、北中城村では図書館を含む施設「あやかりの杜」をNPO法人に委託し、従来は1億ちょっとの予算だったが、現在は5,800万円の費用対効果で運営されている。県立図書館でも指定管理の話があるか。

(事務局)

指定管理についての話がありますが、どういう図書館にするかや、市町村立図書館の支援業務等、政策的な部分も大きいので、民間に委ねるのはどうなのかと考えております。指定管理導入の目的には、コストカットの側面と民間手法を取り入れる側面の2つがあると思いますが、今の県立図書館の状況ではコストカットは難しいと思います。いただいたご意見を参考にさせていただきたいと思います。

(委員)

課題解決型ライブラリアン育成モデル事業の3人の職員は、課題解決専門職員として勤務しているのか、または他の嘱託員と同じように勤務しているのか。

(事務局)

予算要求では、普通に要求してもなかなか認められないですが、国の交付金等にうまく乗れると認められることがあり、この事業も緊急雇用対策事業に乗っています。人材育成ということで、講師を招いて研修を受けることもあります。OJTとして実際の図書館業務をしながら研修し、先輩職員から教わることもあります。

(委員)

オンラインデータベースの充実は非常によいと思うが、館内サービスに止まらず、商工会や市町村向けにレフェラルサービスにつなげられるような、例えば「県立図書館に行けばこういう情報があります。」と紹介できるような広報を検討しているか。

(事務局)

オンラインデータベース導入時の操作研修の際に、県の商工労働部、産業振興公社、商工会議所、中小企業診断士協会、総合事務局等にも案内し、参加してもらいました。

(委員)

市町村立図書館の担当者向けの実施もしてほしい。市町村では答えられない情報も多いが、そういうときに県立を紹介するためには、市町村立図書館の担当者が県立図書館の状況を知っていなければならない。

(委員)

利用対象は全県民だが、講座やセミナーに参加した方は那覇市民が多かったのか、他市町村の方も同じくらいいたのか。こういう事業があるときに、市町村立図書館で「県立図書館でこういう事業があります。」と紹介できるように広報しているか。

(事務局)

館内での案内の他に、ホームページや新聞の無料広告等を活用しています。山之口獏児童詩展では、新聞社に取材してもらいました。全県的に周知できるよう努力しています。

すが、及ばないところがあるかもしれません。

(委員)

昔から図書館というところはPRが下手だ。自分たちは現場にいて中身を知っていて周知しているつもりだが、一般の方は知らないというギャップは結構ある。やってるつもりでも全然足りないという意識を持った方がよい。図書館だよりを作る程度では全然足りない。あらゆる情報手段を使ってどんどんPRしていくことが必要だ。

(委員)

広報は大事だ。将来、図書館を活用して生活の質を高められる基礎資質として、活字文化の大切さを子ども達に教えたい。県立学校では校長は75人いる。1学年15,000人、全体で約5万人の生徒達がいる。さらに後に続く中学校、小学校の子ども達がいる。校長会等の組織との協力もしてほしい。博物館・美術館はそういう取組をしている。学校との連携による広報の状況について聞きたい。

(事務局)

学校職員に聞いてもらいたい研修について、市町村教育委員会の担当者を通じて周知をお願いしていますが、参加者名簿を見ると市町村が偏ったりしているので、市町村によって周知状況がまちまちだと感じています。県立高校については、直接に一斉送信で呼びかけたところ、かなり参加状況がよくなりました。市町村教育委員会との連携を強化する必要があると感じています。

(委員)

館内に集会施設があれば、そこで校長会の研修等を実施してもよいと思う。

(事務局)

ホールを使っていたきたいのですが、駐車場の問題や光熱水費の予算がないため、積極的に言えない状況で、まずは予算の獲得からと考えています。駐車場不足についてはなかなかいい案がありません。現在、新館構想が出ているので、なおさら予算が難しくなっていますが、こちらから校長会に出向く等、策を考えていきたいと思えます。

なお、お手元の「一括貸出のしおり」は県内のすべての学校と教育委員会に発送しています。

(委員)

反応がいいところは放っておいてもよい。そうでないところをどうするか。こちらから出向いて担当者と関係づくりをして理解してもらえると一気に進むところがある。出前で講座を開き、人を集めてもらって「こういうことをやってます。」とダイレクトに伝えることで結構変わってくると思う。

何かを実施した後は、結果を追跡しなければいけない。図書を利用してもらうことがゴールだとすると、読み聞かせの参加者が図書までたどり着いているのかどうか追跡しなければならない。徹底的にデータを蓄積して分析しなければ、どこが強くどこが弱いかが見えてこない。まずは基礎データを徹底的に取って追跡し、弱点はどこで、どうアプローチしていくのかという仕事の流れを作っていくといけない。

そのときには個人情報の問題になる。図書館には個人の頭の中の構造がわかるぐらいデータが蓄積されている。それを単純に民間に預けてもいいのかという問題もあり、ここはやはり県等公的な機関がしっかり管理してやっていくのがよいと思う。

いたずらに民間に任せるのは疑問がある。競争相手が県内にたくさんあってどこも実力があるとわかった上であればいいが、そうでなければかえって失敗するのではないか。  
(委員)

一般的に、図書館システムでは、誰がどの本を借りたかということとはわからないようになっている。個人情報とは切り離して、何歳のどの性別の人がどの本を借りたかというような情報だけが残るようになっていて、統計はとれる。  
(委員)

図書館には取扱注意の情報もあるので、そこに配慮しながら活動していく必要がある。

(委員)

県の商工労働系では、最近、産業人材の大学卒業後のキャリア形成にかなり力を入れている。例えば、キャリアパスの形成やリーダーになるためにどういうことをすればいいのかということに、いろんなところから予算が下りていろんな団体に取り組んでいる。そういうところと図書館の蔵書がうまく連携できるといい。セミナー等でマインドセットはできるが、その後実際どうすればいいのかという段階で、図書館に行けば学ぶべきものがあり、ライブラリアンがそれを導いてあげることができたら面白い。

ライブラリアンの質の話では、市町村にどういう質を求めるのかということもある。産業振興では、市町村は雇用を中心に取り組み、県は産業振興を大きく捉えて取り組む形になっている。新県立図書館でも市町村立図書館と差別化することになると思うが、ハードは差別化してもライブラリアンの能力は等しくなければならない。互いに「ここにはないけれども、あそこの図書館には情報がある。」と紹介できるサービスがどこでも受けられれば、県立図書館は1箇所しかなくてもうまくサービスできる。

(事務局)

課題解決サービスの中では、関係機関を紹介する機能も持たなければなりません。利用者から相談があったときに「それはどこに行ったらわかる。」というところまでできればいいのですが、それには長い間その担当をしながら関係を作り上げる必要があり、今は始めたばかりでなかなかそこまでできていません。県立図書館自体がまだこれからという状況です。職員の人事配置期間が短いという問題もあります。

(委員)

スタッフ同士の人脈は必要だ。

(委員)

プロパー職員を増やしていくしかないということになると思う。

(委員)

全県的なサービスをぜひ展開してほしい。宮古分館廃止前、県立図書館と市立図書館にリクエストをかけると、県立が圧倒的に早かった。予算規模やネットワークの強さがあったと思うが、分館廃止後はそのネットワークが使えなくなった。

宮古分館廃止前は県立と市立で合わせて4冊リクエストできたが、今は市立だけの2冊しかリクエストできない。電話で県立に直接利用を申し出たが、市立図書館を使うように言われた。リクエストすると市の予算の中で相互貸借することになるので、2ヶ月

待たされることもある。これが宮古島市での資料を取り寄せる現状だ。そういうことを意識して、全県的な取組として県のサービスを展開してほしい。

また、全国的な情報収集やいろんなサービスがあることを市に積極的に情報発信して市の図書館の質の向上に積極的に関わってほしい。例えばブックスタートに関して、県では全県調査をしてホームページにもブックスタート実施市町村を掲載している。そうした情報を市町村に積極的に提供してほしい。

宮古分館が廃止された理由の一つに、宮古島市立図書館の新館が計画されていたことがあった。その新館は今年開館の予定だったが、延期されている。そういう宮古島市の状況を丁寧に見て、必要なサポートの声かけをしてほしい。

こうしたことは、宮古だけの問題ではなく、那覇市から離れている市町村や離島にも言えることだと思う。

(委員)

宮古、八重山分館の廃止の代替措置について、地域住民の方がどのように感じているのか知りたいと思っていた。建物としての分館は廃止するが、県立図書館レベルでの図書館サービスの低下を防ぐための代替措置がどうなっているのか、地元の方達はどのように感じているのか知りたかった。今のご意見を聞いて、ギャップがあると感じている。

資料の中でも離島読書活動支援という項目は上がっている。提供者の目線と利用者目線がうまく一致していればいいのだが、はたしてどうなのかと考えた。本島にある県立図書館として、もう一度考えてみないといけない項目の一つになる可能性があると思う。

(事務局)

この件については、本庁とも相談し確認しながら、県立図書館として受け止めて動いていきたいと思います。

(委員)

館内視察の際に、年齢別のこどもにおすすめの本の紹介があって、よいと思った。こうした情報を県立図書館から各学校に流してもらいたい。今、子ども達は本を読むよりスマートフォンを触る時間が長い。読書の大切さを実感している。市P連や高P連等の事務局に流してもらえれば事務局から一斉送信もできるので利用してほしい。

子ども達にどういう本を与えたらいいのか親として不安なところもあり、こういう形でおすすめがあれば自分の子どもにも読んでもらいたいので、情報提供してほしい。

(委員)

読み聞かせや推薦図書等を膨らませるための思いつきだが、例えば小学校高学年の子ども達が低学年の子ども達に読み聞かせてあげる等はどうか。そうすれば、必死になって読み込み、理解しようとする。そういう読み聞かせや朗読のコンテスト的なものは面白く話題にもなる。小さい頃からコミュニティに参加しているという意識につながり、将来、ハイレベルなボランティアに育つ可能性も生まれる。「参加型」をテーマに考えてもいいのではないか。

(事務局)

現在、小中学生が幼稚園や保育園に関わる取組が、学校の授業の中で行われており、中学校では家庭科の中で幼稚園との連携で幼稚園生への読み聞かせをする学校が出てき

ています。第2次沖縄県子どもの読書推進計画の中でも、小中学生、高校生が幼稚園や保育園に対して読み聞かせをしてほしいという項目があり、私達も生涯学習振興課とともにこうした動きを推進していかなければならないと考えています。

(事務局から、報告③について説明)

(委員)

事業や研修会はよく頑張っていると思うが、他県と比較するとどうか。また、今後も進化、発展を続けるために、本県教育の基本施策や県立図書館としての役割を踏まえた内容の検討と、その広報を工夫していく必要がある。

(委員)

総じて、事務局からの総合評価に準じてよいと思う。

(委員)

レファレンス件数の評価が高いのは県立図書館としては大変優れた業績と評価する。しかし、入館者数の増で評価が高くなる設定は、市町村との棲み分けや県立図書館の在り方を考える上では見直してみてもどうか。

県立は例えば郷土資料の充実、データベースやネットワークの充実、人材育成、地域へのサービスに特化し、来館者数や直接来館に関しては市町村をサポートするという形で、今後考えていかなければならない。市町村でも来館者数を増やすために努力する、県立でも努力する、そして手が回らなくてサービスや予算が滞っていくということであれば、ここで高い評価を得ていることが、実は問題ではないかと思う。

(事務局)

私どもも同じジレンマを感じています。入館者数増はありがたいことですが、県立としては、人や予算を直接来館できない全県民への平均したサービスにも投入したいという考えもあります。人の投入部分や指標とすること自体も含めて、次期計画では検討していきたいと思います。

利用者数のほかに利用者の構成の問題もあります。アンケートでは、利用者層は子どもや退職された年輩者に偏っています。課題解決型サービスの視点からは、本来必要としている人達はビジネスマンや研究者、行政マン等であり、そうした指標の見直しも考えているところです。しかし、現指標は既に目標として決めてしまっているので、今回はそのままとしております。来年は見直しできるかも含めて検討したいと考えています。

(委員)

郷土資料はあとどれくらい集めればよいのか。古い資料は保存して見せる段階に入っていて、必死で集める部分はもうそんなにはないのではないかと考えているがどうか。郷土資料として重要なものとして捉えている資料がどのくらいあるのか。

(事務局)

現状では、寄贈の申出を受けてチェックする際にほとんど既に所蔵している状況になっており、古い資料についてはだいぶ揃えられていると考えています。戦争で焼失してしまったと思われる資料が見つかったり、外国等に流出した資料が戻ってくるというよ

うなことがあれば新たに収集対象となると思います。

(委員)

古い郷土資料に関しては、受入冊数だけでは評価できないフェーズに入っているということか。

(事務局)

はい。しかし、沖縄は出版点数が多く、新しい資料が次々出てきますので、県民の財産として保存していきたいと考えています。自分史等も含め、将来的に沖縄を知る資料であれば、図書館として保存する必要があると考えています。新しい資料も200年、300年先には貴重な資料になります。県立図書館は郷土資料の中核的な図書館だと考えており、国会図書館にもない資料を、地元だから収集できているという例もあります。そのように網羅的な収集をしており、郷土資料はどんどん増えていくと考えています。

(委員)

広域型図書館について。県立図書館のホームページを見ると市町村との連携ができていると思ったが、評価としてプラスマイナスゼロという程度なのが意外だった。「市町村立図書館を通じたサービスの提供」の関連で、先ほどの宮古の話のような点を加味すると実際には「3」ではなく「2」くらいかもしれない。ネット上での連携はできているので、運用レベルで改善が図れるのではないかと思う。例えば県で予算の融通がきくのであれば、宮古島市にリクエストが来たものであっても宮古島市に予算がない場合、県立図書館で購入できるような配慮もあってよいのではないか。

(委員)

県立なので「図書館の図書館」として市町村立図書館をサポートするのが大きな役割。同時に直接の来館者へのサービスも求められるが、予算やスタッフが限られている現実からすると、多くの項目の中から優先順位をつけて進める対応も必要だ。気になるのは、分館の廃止とそれに代わる手厚いサポートと本島内での遠隔地へのサポート。きちんと手当してほしい。

そして、利用者にとっての第一線図書館である市町村立図書館から助力を求められた時にきちんとサポートができる体制が、資料的にも、施設・設備的にも、スタッフ的にも整っているかどうか。

これまでの考え方だけでは運営が難しい時代になっている。新たな考え方、新たな発想で、時代に対応した図書館を作っていくことが求められるのではないかと思う。

以上